

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	あり
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	コウエキサ <sup>イ</sup> ダ <sup>ン</sup> ホウジ <sup>ン</sup> シンニホンフィルハーモニーコウキョウガクダン 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団	団体ウェブサイトURL	<a href="https://www.njp.or.jp/">https://www.njp.or.jp/</a>
代表者職・氏名	理事長 宮内義彦		
制作団体所在地	〒 130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-3すみだトリフォニーホール7階	最寄り駅(バス停)	JR・半蔵門線「錦糸町駅」
電話番号	03-5610-3820		
ふりがな 公演団体名	シンニホンフィルハーモニーコウキョウガクダン 新日本フィルハーモニー交響楽団	団体ウェブサイトURL	<a href="https://www.njp.or.jp/">https://www.njp.or.jp/</a>
代表者職・氏名	理事長 宮内義彦		
公演団体所在地	〒 130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-3すみだトリフォニーホール7階	最寄り駅(バス停)	JR・半蔵門線「錦糸町駅」
制作団体 設立年月	1972年9月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長／宮内義彦 副理事長／日枝久 専務理事／林豊 理事／門脇 賀智志、川寄 靖之、國部 毅、小路 明善、澤上 篤人、澁谷 哲一、庄子 幹雄、鈴木 茂晴、高木 俊明、竹中 平蔵、竹原 一衛、増田 宗昭	(1)団体構成員 音楽監督:佐渡裕 楽員86名、事務局員27名 (2)加入条件:楽員の採用は当団規定の要綱に従ったオーディションによる。事務局員の採用は当団規定の面接による。年齢・国籍などの条件なし。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	田口 寛
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	石川 潔
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:taguchi@njp.or.jp">taguchi@njp.or.jp</a>		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1972年、小澤征爾、山本直純の「一緒に音楽をやろう！」という掛け声の下、自主運営のオーケストラとして創立。1997年、墨田区に移転。すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日常の練習と公演を行うという日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、墨田区の学校の音楽授業、鑑賞教室、福祉施設等での演奏活動等、地域に根ざした演奏活動も精力的に行っている。</p> <p>1999年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任、歴代の指揮者には、初代音楽監督・小泉和裕(1975年～1979年)、第2代音楽監督・井上道義(1983年～1988年)、第3代音楽監督・クリスティアン・アルミンク(2003年～2013年)、第4代音楽監督・上岡敏之(2016年～2021年)が就任。その他、ダニエル・ハーディングがMusic Partner of NJP(2010年～2016年)、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residence(2013年～2015年)を務めた。新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラの音楽監督に久石譲(2004年～)、また新日本フィルのComposer in Residence and Music Partner(2020年～)も歴任している。久石とのコラボレーションとして、映画『千と千尋の神隠し』、『ハウルの動く城』、『崖の上のポニョ』の管弦楽を担当。受賞歴に2006年第3回三菱信託音楽奨励賞(アルミンク指揮『火刑台上のジャンヌ・ダルク』)、2009年第18回三菱UFJ信託音楽賞(アルミンク指揮『ベートーヴェン・プロジェクト』)、同年第22回ミュージック・ペンクラブ音楽賞(ブリュッヘン指揮『ハイドン・プロジェクト』)等。</p> <p>佐渡裕が2023年4月より第5代音楽監督に就任。</p> <p>創立50周年を迎えた2022/2023シーズンは、様々な記念演奏会を開催、定期演奏会には新日本フィルと深い絆を持つ指揮者たちが名を連ねる。</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>設立以来墨田区内を中心に小中学校の体育館へ出向くアウトリーチ、コミュニティコンサートを数多く実施し、近年では墨田区文化振興財団の依頼により年平均30回以上実施している。</p> <p>直近訪れた学校 2022年11月言問小学校、錦糸中学校、横川小学校、業平小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、毎年区立の全小中学校で行っている「吹奏楽・プラスクリニック」</li> <li>・地域拠点契約を結んでいる可児市で行っている室内楽携帯のアウトリーチ</li> <li>・三重29市町巡回公演で、今年は2年目として亀山市にてアウトリーチ(学校訪問)・観光地コンサート・フィナーレコンサートを行う。今後三重県内すべての29市町と連携を取りながらアウトリーチ活動をおこなっていく。</li> <li>・2024年6月東京都立青鳥特別支援学校にて生徒さんに試奏を含めた弦楽器の指導</li> </ul> <p>2024年11月、12月 島根県境港市立第一中学校、米子市立淀江小学校等4校でアウトリーチ活動予定。</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>【オーケストラ協同組合 主催事業】</p> <p>2016年3月 東京都立墨田特別支援学校 2017年2月 東京都立江東特別支援学校 2018年2月 東京都立小平特別支援学校 2018年12月 東京都立光明学園 2019年11月 東京都立光明学園 2021年6月 東京都立城南特別支援学校 2022年9月 東京都立水元小合学園 2022年11月 東京都立白鷺特別支援学校 2024年6月 東京都立青鳥特別支援学校</p> <p>【文化庁 障害者等による文化芸術活動推進事業】</p> <p>2019年、2020年、2021年、2022年、2023年、2024年と各10回以上静岡県伊豆地方と墨田区特別恵支援学級に向けて実施</p> <p>【墨田区文化振興財団 特別支援学級の生徒に向けた音楽療法アウトリーチ】</p> <p>今年度から始まった事業で、同じ学校へ連続して4日間伺い、アウトリーチを行うことでどのような変化が児童生徒に現れるかを検証する。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/RWvgxbG6W7w">https://youtu.be/RWvgxbG6W7w</a> <a href="https://youtu.be/defVe6ZC9rg">https://youtu.be/defVe6ZC9rg</a></p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	



<b>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</b>	前日仕込み		有	前日仕込み所要時間		時間程度		
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	10:00	10:00 - 13:00		13:00 - 14:30	10分	14:30 - 15:30	15時30分	
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。							
<b>本公演 実施可能日数目安</b>  <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月		7月		8月		9月	
	10月		11月		12月		1月	
	5日		3日		1日		2日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		11日
<b>公演に係るビジュアルイメージ</b> (舞台の規模や演出がわかる写真)								
	<small>※採択決定後、図面等の提出をお願いします。</small>							
<b>著作権、上演権利等の 許諾状況</b>	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否			該当あり		該当コンテンツ名		久石譲：オーケストラ・ストーリーズ「となりのトトロ」より、「さんぽ」
	該当事項がある場合			権利者名 久石譲		許諾確認状況		使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 新日本フィルハーモニー交響楽団】

ワークショップのねらい	昨年度に引き続きベートーヴェンの「運命」を指揮者体験を遂行した。「運命」の冒頭から提示部途中くらいまで弦楽四重奏版等、ワークショップの人数で可能な編成で指揮を体験することにより、「振り」一本で奏者の演奏自体が変化してしまう「臨場感」を体感してもらうことにより、音楽の理解を深めてもらうことを意図している。各生徒が指揮には何が必要か・何を意識して指揮をしているのかを考え、ワークショップではその疑問をに指揮者にぶつけ、指揮者とのやり取りや実際に指揮体験をする中で音楽がどういうものか・指揮をしてメンバーをまとめるという仕事がどういうものかを感じ取ってもらう。よりよい音楽にするためにはどうしたら良いか、児童・生徒自身が自発的にまたそれぞれが意見を出し合い協力しながら答えを見つけしていく過程で、自然と音楽への興味が深まるように期待したい。実際に耳なじみのあるクラシックでどのように演奏が変わるのかを体験してもらう方が、体験している人も聴いている人も違いが分かりやすいのではないかと考え、昨年度、今年度ともに学校での生徒の反応が良く、来年度もベートーヴェンの「運命」で指揮体験コーナーを実施する予定。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>初めによく知られている室内楽演奏を聴いてもらい、間近で本物の音楽を聴いてもらう。そのあと、指揮者によるトークを挟みつつ、楽器紹介を行う。楽器紹介では簡単なフレーズあるいは短めの曲を奏者一人一人に演奏してもらい、楽器の音色・特色を感じてもらい、ここで奏者への質問なども挟み進行する。</p> <p>通例でだと「どうして音楽家になったのか」、「楽器の特徴、材料やいつ頃作られたのか」等が質問によく上がり、それに付随して普段のオーケストラでの役割などについて奏者より説明してもらう。</p> <p>その後、本公演で実際に指揮をするベートーヴェンの交響曲第5番「運命」の室内楽編曲verを実際に児童生徒に指揮してもらい、レクチャーをする。出したい音色に対してどのようにアプローチが必要か、どのような気持ちで指揮をすると伝わるのか等、指揮者と一緒に組み上げていく。</p> <p>体験コーナー終了後、もう一度室内楽を聴いてもらう。最後に演奏を置くことで、最初よりも楽器を理解している状態になって、興味をもって聴くことが出来るようになっていることを実感させる狙いがある。</p> <p>WSでは本公演では演奏しない曲も演奏する。巡回公演に応募することで、様々な種類の音楽を聴くことが出来、充実した音楽体験になるという経験を感じてもらえるようにしたいと考えている。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>■特別支援学級などを対象とする場合</p> <p>普段と変わらずリラックスして聴いて頂くことを優先し、演奏の楽しさを五感で感じられる場を提供する。弊団の特別支援学校での演奏経験を踏まえ、TVや映画などで普段聴き馴染みのある楽曲も多く取り上げ、緩急織り交ぜたプログラムを組むことで飽きずに楽しめる工夫をした。古典派のクラシック音楽中心に幅広く楽しみながら鑑賞して頂くことで、芸術の多様な側面を感じてもらい。また昨年度末楽団で購入した野外用の弦楽器(ヴァイオリン、チェロ等)を実際に体験してもらう。今年6月青島特別支援学校(別事業:障がい者等に夜文化芸術活動推進事業)で実施したところ、生徒が普段手にしたことのない楽器を演奏することにより、心から興味をもって試奏している様子が伺えたことから来年度も継続したい。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

新日本フィルハーモニー交響楽団

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施するための工夫</p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b></p> <p><b>a)「オーケストラが担うべき本業」という意識・姿勢での取り組み</b>          新日本フィルハーモニー交響楽団は、1997年より墨田区(すみだトリフォニーホール)を拠点とする日本初の「フランチャイズ」を導入したオーケストラであり、他楽団に先行して区と連携した子供に対する音楽普及活動や地域の音楽芸術文化向上に努めてきました。20年以上に渡り、一年間で区内全ての小中学校(小学校25校、中学校11校)を訪問する音楽出張授業を実施し、体育館で開催するコミュニティコンサート、トリフォニーホールへ足を運んでもらう小中学生音楽鑑賞教室等も毎年行っています。このような活動は他自治体からも注目を頂いており、墨田区でのアウトリーチ活動で蓄積した経験の元、静岡県下田市や岐阜県可児市など、各地で子供に対する音楽普及の輪を広げてきました。こうした長年の活動を通し、「音楽を通した子供の育成事業」が決して「付随業務」ではなく、「オーケストラが担うべき本業である」という意識が楽団全体に根付いています。本事業においても、こうした意識、姿勢のもと活動に取り組んでいく考えです。</p> <p><b>b)オーケストラを通じて、他者への興味を持たせ、協調性を学ぶ</b>          オーケストラは一人では演奏出来ません。約60名もの異なった個性を持った人間が集まり、様々な音色を持つ楽器を演奏することで、一つの音楽を作り上げています。ある楽器(奏者)が演奏しているときには休んでいる楽器(奏者)がいたり、同じタイミングだけれども全く違ったリズムや音色をぶつけ合ったり、あるいは譲り合ったりすることで、美しく壮大なアンサンブルとしての音楽が出来上がります。みなそれぞれの個性をもった音色をしており、だからこそオーケストラは面白く、可能性が広がっているのだということが演奏から感じ取って頂きたいと考えております。          その個性豊かな音楽家たちの演奏を、指揮者は音を出すことなくまとめ上げます。そのような社会の縮図ともいえるオーケストラから、個性の大切さや他者への配慮、協調することの意味を学んでいただきたいと願っています。</p> <p><b>c)こどもの芸術体験における音楽の最適性</b>          さまざまな文化芸術活動があるなかで、音楽の果たす役割の大きさについてアウトリーチなどを通じて楽団のなかでもよく議論されています。絵画や工作は手先の器用さなど個人の能力に付随してしまふ部分もあり、特に成長の度合いにばらつきのある小学校・中学校の児童生徒のかたには体験として充実が難しい場合も多いかと思えます。音楽の鑑賞に先立って、用意しなければならないというものがないということで、幅広い学年・児童の方にも楽しんで頂くことが出来るのではないかと考えています。一方、耳に障がいを抱えている児童生徒の方にも楽しんで頂ける工夫も必要で、音を振動と色で伝えるサウンドハグといった機械をオーケストラのホール公演では導入した公演もホールでは行っております。体育館ではまだ難しいかもしれませんが、多くの方へ分け隔てなく伝えられるオーケストラとしての活動をもっと広げていければと考えております。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b></p> <p><b>a)実施経験豊富なプログラムによる事業実施</b>          当楽団が長年墨田区やその他地域で取り組んできた曲を多く取り入れました。分かりやすいプログラム、定番クラシックから法人作曲家の演奏、いわゆる「本物」の音楽を緩急を織り交ぜ、かつ軽快なトークでフォローすることで生徒たちの興味をそらさない工夫をしています。また指揮者の方のお話をいれつことで、演奏家とは別視点の音楽が伝わればと考えております。</p> <p><b>b)経験者による学校様との十分なコミュニケーション</b>          子供に対する音楽普及活動の経験が豊富な楽団員、事務局員を巡回公演担当として配置します。窓口を明確にすると共に、公演実施まで随時相談頂くことが可能な体制と致します。事前打合せ時には、公演実施にあたり必要となる情報を事前に学校側に明示し、効率的に打合せを進めます。きめ細かなコミュニケーションを通じて学校側の不安を極力取り除くことも事前打合せの重要な役割と認識しています。</p> <p><b>c)ワークショップの効果的な活用</b>          事前に映像資料を送付し児童生徒たちが自分の参加する曲について予習できる期間を設け、指揮について・音楽について考える時間を子供たちに提供します。実際のワークショップでは本公演に向けて理解と興味が深まるような指導と、指揮者・演奏者と直接触れ合い意見を交わすことでより期待を高め、本公演に臨めるような工夫をいたします。</p> <p><b>d)本番公演スタッフ体制の充実</b>          本公演においては会場設営までの時間が限られ、当日の天候等により臨機応変な対応も必要になります。このため、先入りの舞台配置スタッフと、楽団員随行のスタッフと持ち場を分担し、公演の成功に向けて万全の体制で臨みます。</p>
---	--

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名 新日本フィルハーモニー交響楽団】
項目内容	<p>■実施に当たっての会場条件を記載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台の設置場所:フロア</li> <li>・ピアノ移動の要否:要</li> <li>・緞帳の要否:不要</li> <li>・体育館へのトラック横付けの要否:要</li> <li>・暗幕の要否:不要</li> <li>・電源容量:不要(通常あかりがあれば問題ないです)</li> <li>・舞台に必要な広さ:18m×9m</li> </ul> <p style="text-align: center;">※上記を演奏スペースとして使用した上で対象学年が体育館に収容出来る大きさであること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットゴール:有無は問題ございません</li> <li>・その他:</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①4tトラック(長さ9m×高さ3.5m×幅2.5m)が体育館に横づけ可能なこと(必須)</li> <li>②会場が1階にあること</li> <li>③会場の搬入間口が2m以上あり、搬入が1階でできること</li> <li>④学校周辺道路が大型車両の通行が可能であること。</li> </ol> <p style="text-align: center;">特に、学校敷地内にトラックが入る際の曲り口など、十分な広さがあること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑤学校敷地内に大型バス2台の留め置きが可能なこと。</li> <li>⑥猛暑時には冷房完備のある設備であること(今年度、7月熊本公演時、窓が空いているとは言え、屋内に相当数の人間が集合するため危険度の高い状態であったことは否めません)。</li> </ol>	